



環境報告書2024

ENVIRONMENTAL REPORT



撮影地: 潤沼

生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

環境報告書 発行にあたって

日頃よりパルシステム茨城 栃木の事業活動や組合員活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2024年度は、少子高齢化をはじめ歴史的円安と物価高騰がつづき、事業環境や組合員の暮らしにも大きな影響を及ぼしました。地球規模での気候変動やウクライナ情勢など、わたしたちを取り巻く社会環境は、引き続き予測できない厳しい状況が続くと予想されます。

当生協では、暮らしを守ることを基本に「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を環境方針に掲げ、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量削減・エネルギー効率の見直し・資源の有効利用などの取り組みを継続してまいります。

本報告書では、2024年度に取り組んだ環境方針に基づく目標と成果、環境保全活動についてご報告します。当生協の環境への取り組みをご理解いただく一助となれば幸いです。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年5月

生活協同組合パルシステム茨城 栃木 専務理事 塚本 昭二



理 念

当生協は、『心豊かな暮らしと共生の社会を創ります。一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きつづけられる社会をめざします』を理念とし、あらゆる活動を通じて環境に配慮し、持続可能な社会の実現を目指し取り組んでいます。

組織の概要（2025年3月31日現在）

設 立 ● 2000年3月20日

所在地 ● 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号

代表者 ● 理事長 青木 恭代

供給高 ● 177億円

出資金 ● 70億円

組合員 ● 141,718名

施 設 ● 本部、無店舗事業センター7、店舗2、組合員拡大事務所1

沿 革 ● 2000年3月「生活協同組合コープあい」と「ひたちコープ生活協同組合」が組織合同し、「生活協同組合ハイコープ」に名称を変更。

2007年6月「生活協同組合パルシステム茨城」に名称を変更。

2018年9月「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」に名称を変更。

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム（ISO14001）は、企業や団体などの組織が事業活動をおこなう際に、環境への影響を考慮してどうマネジメントしていくかを示す国際標準規格です。

当生協でも2003年2月にISO14001の認証を取得し、事業活動における環境負荷低減の取り組みとして温室効果ガス削減計画の策定や再生可能エネルギーの導入などをすすめてきました。2025年1月22日～1月24日に株式会社日本環境認証機構によるISO14001、1年次定期サーベイランス審査を受け、環境マネジメントシステムが有効に機能していることが確認されました。



パルシステム茨城 栃木 環境方針

生活協同組合パルシステム茨城 栃木は、パルシステム茨城 栃木の理念「心豊かな暮らしと共生の社会を創ります ～ 一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きつづけられる社会をめざします」のもと、事業活動にともなう生物多様性への影響に配慮し、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け、以下の環境方針を定めます。また、環境方針を達成するため環境目標を設定し、定期的に見直すことで、環境マネジメントシステム及び環境パフォーマンスの継続的改善を図ります。

(1) 「脱炭素社会」の実現に向け、事業と組合員の暮らしの両輪で省エネルギーの推進と温室効果ガス削減に取り組みます。

(2) 「循環型社会」の実現に向け、限りある資源の有効利用や3Rの実践を通して、環境への負荷を可能な限り減らします。

(3) 「自然共生社会」の実現に向け、自然環境を大切にすることをすすめます。

(4) 資源循環型社会の実現に向け、事業活動におけるエネルギー効率の見直し、再生可能エネルギーへの転換をすすめます。

(5) 環境に配慮した商品づくりを通して、暮らしの見直しを組合員と共に推進します。

以上の活動をすすめるため、組織のために働くすべての人に対し環境方針の周知徹底を図ります。また、環境方針を理解し行動できるよう環境教育・啓発などを通して環境意識の向上に努めます。

この環境方針は、生活協同組合パルシステム茨城 栃木内外に公開します。

2023年9月1日

生活協同組合パルシステム茨城 栃木 専務理事 塚本 昭二

当生協では、環境に与える影響を最小限に抑えるため、環境方針をたて、方針に沿った目標を設定・評価し活動をおこなっています。

※注1 利用率 注文書を配布した枚数を、実際に注文した人数で割り算した値 ※注2 ASC国際認証 養殖水産物の持続可能性や環境と社会に配慮した養殖の証
●対 象 期 間：2024年度(2024年4月～2025年3月)
●CO₂ 総排出量：電気・ガス・水道・灯油・車両から排出される二酸化炭素の総量
●原 単 位：事業所ごとに、各エネルギー消費量の合計した値を、エネルギー使用量と密接な関係にある単位（パルシステム茨城 栃木では受注高）で割り算した値
●評 価：適合○（達成率100％以上）、観望△（達成率90％以上100％未満）、不適合×（達成率90％未満）
◆環境方針に基づく環境目標と実績は、本部及び認定センター適用

当生協では、パルシステムグループとして温室効果ガス削減計画を策定し、グループ全体で「温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比46％削減」を目指して取り組んでいます。

供給高1億円あたりのCO₂排出量(t/億円)

年度	CO ₂ 排出量(t/億円)
2023年	13.8
2024年	12.3

2024年度 項目別CO₂排出量の内訳

項目	割合
電気	46.3%
車両(軽油)	28.9%
車両(ガソリン)	18.9%
車両(LPG)	5.7%
ガス	0.1%
灯油	0.1%

※電気のCO₂排出係数は、2023年度の係数を暫定で使用しています。

2024年度は、電気の購入先であるパルシステム電力のCO₂排出係数(電力会社が電力を作り出す際、どれだけCO₂を排出したかを指し示す数値)が大幅に変更されました。そのため、これまでの項目別では車両燃料由来のCO₂排出量がトップでしたが「電気」が約半分を占めました。

今年度の供給高1億円あたりのCO₂排出量(t/億円)
は2013年度比89.1%と減少しました。

今後もエネルギーの低炭素化の検討、業務（エネルギー）の効率化、業務用冷凍冷蔵庫の冷媒入れ替え、車両のEV化など効果的な方法を模索し、事業成長を続けつつCO₂削減に取り組んでまいります。

資源の国内循環と廃棄物削減のため、容器包装のリユース・リサイクルをすすめています。

※回収率/1年間に販売した商品の容器包装の量を、生協が回収した量で割り算した値

↑ UP! ↑ UP! ↑ UP! ↑ UP! ↑ UP! ↑ UP! ↑ UP!

組合員活動の取り組み

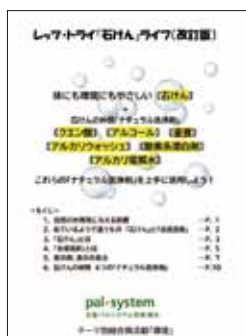
テーマ別組合員活動は、当生協の年度方針に基づき「食育」「産直」「環境」「平和国際交流」の4つのテーマのもと、組合員が自発的に活動しています。テーマ別組合員活動「環境」では、石けんの利用普及に向けた活動や次世代を担う子どもたちに対して環境体験型企画の開催、水環境保全企画などに取り組み、多くの組合員が参加しました。

テーマ別組合員活動「環境」

レットトライ「石けん」ライフ学習会

2024年10月11日（参加人数 15名）

レット・トライ『石けん』ライフ改訂版冊子に基づく学習会を開催しました。生活排水の水環境に与える影響、石けんと合成洗剤の違い、ナチュラル洗剤剤の特徴などについて、メンバーが実験を交えてわかりやすく説明しました。石けんをうまく使えず挫折してしまった方、ナチュラル洗剤剤をこれから使ってみようと思っている方、ひとりでも多くの方に石けんの良さが伝わることを願っています。



★小冊子「レット・トライ『石けん』
ライフ(改訂版)」はこちらでご覧
いただけます



潤沼の生き物観察会

2024年7月27日（参加人数 90名）

茨城県環境アドバイザーの川島氏や、ひぬま生態系再生プロジェクトの中村氏に潤沼の自然環境についてのお話を聞いた後、潤沼自然公園内を流れる若宮川で生き物採取を行いました。採取後、川島氏に分類した生き物の名前や見分け方、特徴などを解説していただきました。コイ、ボラ、フナ、ドジョウ、メダカ、ウナギの稚魚などの他、ヌマエビやシマエビ、クロベンケイガニ、モクズガニなど、数多くの生き物を観察することができました。捕獲した外来種のアメリカナマズ、ウシガエルのおたまじゃくし、アメリカザリガニなどについても日本で増えてきた事情を詳しくご説明いただきました。



「茨城から気候変動を考える」講演会&ワークショップ

2025年2月9日（参加人数 32名）

茨城大学地球・地域環境共創機構 副機構長の田村誠氏に講師をお願いし、「気候変動研究について」と「茨城における気候変動の影響について」お話しいただきました。講演の後、グループに分かれたワークショップで気候変動マスターカードを使い、なぜ地球が温暖化するのか温暖化の仕組みについて話し合い、更に、生活の中で感じる気候変動の影響とその影響に備えるための対策についてグループワークを行い、それぞれ発表しました。初めての取り組みでしたが多くの方にご参加いただき、ワークショップも活発な意見交換が行われ「色々な人と話をすることで、自分では気付かなかった気候変動と人間活動の関わり、また改善策を知ることができ学びが深まりました。」との感想もいただきました。



雪入自然観察会

2024年11月23日（参加人数 44名）

初めての山地域での自然観察会をかすみがうら市「雪入ふれあいの里公園」で開催しました。講師は茨城県環境アドバイザーの川崎氏。山での観察は、身近なところでは鳥・昆虫・草花・樹木・鉱物等がみられ、都度説明を聞きながら山歩きのだいご味を堪能することができました。また、中腹域には花崗岩採石場跡の4つの池があり、それぞれに水鳥たちが羽を休めていました。1時間ほど観察をしたのちネイチャーセンターに戻り、途中で採取した白雲母の色々な見方の実習を受けました。



環境報告書 2024

発行日：2025年5月(対象期間2024年4月1日～2025年3月31日)

発行：生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

連絡先：〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号

TEL.029-227-2225 FAX.029-227-2235

<https://www.palsystem-ibaraki.coop/>

